

平成25年10月22日 会頭記者会見 発言要旨

時事の話題

今期最後の記者会見になる。まず、これまでの商工会議所事業に力強いご支援をいただいた役員・議員の方々に心より感謝申し上げたい。

先週末に嵐山で開催された台風被害からの復興をアピールするイベントに参加した。秋の観光シーズンを控え、嵐山にいつものような活気が戻ったように感じている。復旧が進む一方で、防災・減災に対する意識を高め、治水対策を考える必要がある。京都市域の河川を管理する各行政機関に対して、本所としても景観や地元商工業者、住民に配慮した安全・安心な地域づくりを目指して働きかけていく。

国家戦略特区の概要がまとまったが、踏み込み不足であると感じている。成長が期待される分野への進出やイノベーションを促進するためには、その妨げとなる現行の規制や制度をゼロベースで見直し、大胆な規制・制度改革を断行すべきである。

京都商工会議所の動き

■会員増強運動の結果報告について

現在の会員数が12,005となり、平成13年9月以来、12年ぶりに会員数が1万2千を超えた。平成25年3月末時点での会員数が11,062であり、半年間で約900会員が増加したことになる。各地の商工会議所が会員数の維持に苦戦している中であって、評価できるものと思う。

会員数が増えた要因として、会頭就任以来掲げてきた「知恵産業」の取り組みが浸透し、新たなチャレンジに意欲的な事業者が増えたことや、全職員による事業所訪問活動や様々な経営支援を通じた会員目線の取り組みが実ったものではないかと思う。また、本所の役員・議員に多くの事業所を紹介いただいたことも大きく働いた。

今後も、会員ニーズにきめ細かに対応するとともに、商工会議所の魅力アップをはかるため、経営支援の充実などにつとめたい。

■知恵ビジネスメッセ「Kyoto Millennium Showcase」について

知恵ビジネスに取り組む120社が一堂に会する「知恵ビジネスメッセ“Kyoto Millennium Showcase”」を11月1日に開催するので、改めてご案内する。

また、知恵ビジネスプランコンテストの今年度の応募受付を開始した。知恵ビジネスメッセに出展する120社に続くような新たな価値創造・顧客創造に取り組む中小企業を支援していきたいので、起業家精神溢れる多くの中小企業に、ぜひ応募してほしい。

■京都府・京都市への平成26年度予算要望について

「京都府・京都市の平成26年度予算に関する要望」をとりまとめた。今回の要望は、府市協調で進める取り組みとして、「京都経済センターの実現」や「低エネルギー社会の推進に向けた施策の推進」などを要望している。更に、平成27年2月に京都市内において開催する日本商工会議所の青年部全国大会への開催支援をはじめとして、重点要望項目7項目を要望している。

■未来技術交流会について

本年7月の京都産学公連携機構の総会で取りまとめた「オール京都による『イノベーションの都』推進宣言」の具体化の一環として、この度、本所では京都産学公連携機構と一緒に「未来技術交流会」を立ち上げることにした。

この未来技術交流会は、防災や医療、ビッグデータなど成長性や将来的な需要が期待できる産業分野に関して、大学と中堅・中小企業が自由闊達な意見交換を行い、各社の強みに気づく場として開催し、新たな製品開発グループの形成を目指すものである。大学と中堅・中小企業との交流が活発となり、研究開発成果が事業化され、次代の京都を担っていくことを期待している。

記者からの質問事項

■会員増強運動について、目標の1万2千会員を達成されたが、その次の目標はあるか。また、現在の会員数を維持していくために、充実させていきたいことがあれば教えてほしい。

次の3年間で1万3千会員を目指したい。1万2千会員を維持し、上積みしていくために、基本的には魅力ある活動に取り組み、京商ブランドをより一層高め、会員のニーズに密着した取り組みを推進したい。

■リニア中央新幹線について、JR 東海・山田社長が公的資金の投入に前向きな考えを示されたが、大阪までの同時開通や、京都駅ルート実現の実現可能性にプラスに働くと思うか。

名古屋以西の完成が遅れることは、関西圏の衰退につながりかねないと懸念している。今回の発言を機に、大阪までの同時開通への議論が活発になることを期待したい。

将来の日本の背骨となる非常に重要な事業であるので、国がもっと関与した上でJR東海と協議していくべきである。日本全体の経済効果や、日本のあるべき姿を見据えた上で適切なルートを決定し、同時に関西広域連合や関西経済界が強く要請している大阪までの同時開通を実現してもらいたい。

最終的には関西にとって最も好ましいルートになるように、関西広域連合等で積極的に検討してもらいたい。京都としては京都府・市と連携し、京都駅ルートの優位性を主張し続けていく。最終的には関西広域連合等の検討結果を待つことになると思う。

■京都府・市への予算要望の項目に「京都経済センターの実現」があるが、「積極的な参画・支援」とは具体的にどういうものか。

様々な検討課題があり、現時点で具体的なことを申し上げることは難しい。予定地の土地・建物には多くの関係者がおられ、それらの方々の権利関係の調整は、事業を進めるにあたって大変重要なことである。多少時間がかかっても資金面・運営面等の事業スキームについてさらに掘り下げて検討していかなければならない。オール京都で良い経済センターを作っていくために、京都府・市からの支援を要望していきたい。

以上



今に生きる、千年の知恵。
 伝統と革新の都・京都では、日々、新たなモノ、コトが出会い、融合し、
 独創的な商品やサービスがどんどん生み出されています。
 京都商工会議所では、「知恵産業のまち・京都」を目指し、「知恵ビジネスプランコンテスト」、
 「創造的文化産業モデル企業選定事業」、「国内外販路開拓支援事業」などの事業を通じて、
 新たな価値創造に挑戦する数多くのビジネスを支援してきました。
 そしてこの度、これらのビジネスが一堂に会する展示商談会
 「知恵ビジネスメッセ“Kyoto Millennium Showcase”」を開催し、
 ここでしか出会えない、独創的な商品の数々を展示・紹介いたします。
 皆さまの新たなビジネスにつなげる機会として、ぜひご来場ください。

ファッション — 京都流・大人スタイル —
 刻々と変化するファッショントレンドの対極には、いつの世も変わるこ
 とのない不変の美意識が存在しています。京都で紡がれてきた和の
 装いが見え隠れする、現代のファッションアイテムが勢揃い。

ライフスタイル — 心をこめたモノとコト —
 京都には「豊かな時間」を実現する知恵が眠っています。心を込めた
 贈り物やおもてなし、心休まる設えや充実した毎日過ごす趣味な
 ど、人生に彩りを添えるモノとコトを提案します。

美と健康 — 京美人を育んだ秘けつ —
 花街や王朝に育まれた艶やかな華飾の世界、実は洗練された“素”
 の美しさに支えられています。京都の素材と技を駆使し、心と体はも
 ちろん、自然環境にも優しいアイテムで永遠のテーマに応えます。

食品 — 食文化の新ステージ —
 豊かな食材、水、製法へのこだわりから生み出される京都の逸品。料
 理職人の手技や京の伝統野菜など、口の肥えた消費者を満足させ
 る食文化の創造で、新しい味わいを提案します。

素材 — マテリアル・プロデュース —
 伝統の素材を現代生活の視点からリ・プロデュースすることで、より
 豊かな暮らしを演出する新しいデザインや質感のマテリアルが誕生。
 使い方次第で、素材の可能性は無限に広がります。

技術 — 新市場に挑む現代の匠 —
 老舗から先端技術企業まで、多種多様な業種・業態の企業の集積
 と交流が多くの“オンリーワン”を生み出してきました。世の中にブ
 レークスルーを起こす京都ならではのビジネスがキラリ。

観光 — 暮らすように旅する京都 —
 訪れるたびに新たな発見がある、お仕着せでない京都体験。観光地
 を巡るだけでは違う、新たな京都時間の過ごし方。ますます高まるイ
 ンパウンド需要のニーズに対応します。

Rin crossing コレクション・ブース

The Place of Discovery
Rin crossing

「Rin crossing(リン クロッシング)」は、中小機構が主催する、“地域発の洗練された商品”をつくる中小企業と販売者をつなぐプロジェクト。
 バイヤーとメーカーの間に入り、市場ニーズと「職人の技術」「地域の素材」をマッチングします。
 知恵ビジネスメッセ“Kyoto Millennium Showcase”では、「ギフト」をテーマに、Rin crossingがセレクトした魅力的な商品展示。
 “最上級の気持ち伝える”モノを揃え、遊び心、ストーリー、オンリーワンのクオリティなどがプラスされた、新しい“フォーマル”を提案します。 ※写真は、イメージです。
 ※Rin crossingへの参加登録もお待ちしております。 バイヤー、メーカーとも参加登録無料。

Rin crossing 事務局
 電話：03-6441-4194 FAX：03-6441-4902 Email：rincrossing@smrj.go.jp
 Web site <http://rincrossing.smrj.go.jp/> Facebook <http://www.facebook.com/Rincrossing> —最新情報更新中!

シンポジウム・記念講演

事前申込制

日時	11月1日(金) 10:30~16:00	定員	200人(先着順)
会場	みやこめっせ 地下1階 特別展示場	参加費	無料

10:30~12:00 (関連事業)京・知恵舞台 主催:京都産業育成コンソーシアム <http://www.kyoto-conso.jp/>

テーマ 「陰陽師のノウハウをビジネスに活用する! ~平安時代から高野山に伝わった知恵を現代に生かす~」

講師 児玉 充晴氏 中部大学経営情報学部 経営情報学科 教授

13:15~14:45 販路開拓シンポジウム

テーマ 「戦略的販路開拓 ~期待に応えるものづくりとは~」

パネリスト 細尾 真生氏 (株)細尾 代表取締役社長
 西堀 耕太郎氏 (株)日吉屋 代表取締役/T.C.I. 研究所 代表

コーディネーター 北河原 純也氏 ライフスタイルプランナー

15:00~16:00 記念講演

テーマ 「いま必要なこと ~マーケティング、ブランディング、プロデュースマインド~」

講師 藤巻 幸大氏 (株)シカタ エグゼクティブ・プロデューサー・参議院議員

藤巻 幸大氏 プロフィール
 伊勢丹で数々の売り場をプロデュースし、カリスマバイヤーとして注目される。2003年補助代表取締役社長に就任し、約1年半で経営再建に成功。2005年からはイーヨー・カ堂取締役執行役員衣料事業部長として同社衣料部門の立て直しに取り組む。2012年5月、ECサイト藤巻百貨店を立ち上げた。同年12月より参議院議員。

事前申込制
交流パーティー

日時 11月1日(金) 16:30~18:00
 会場 みやこめっせ 1F 第2展示場
 対象 バイヤー、メディア、出展者
 参加費 3,000円/人

人脈を広げるための、バイヤーと出展者限定のビジネス交流会です。

事前申込制
バイヤーツアー

11月2日(土)
 市内に点在する出展者の工房、店舗等を回るバイヤーの方を対象としたオプション・ツアーです。

詳細・申込 公式サイト <http://www.kyo.or.jp/messe2013/>
 フェイスブック <http://www.facebook.com/kyoto.messe2013>

開催概要

日時：平成25年11月1日(金) 10:00~16:00
 (オープニングセレモニー 9:45~)

会場：京都市勧業館「みやこめっせ」 京都市左京区岡崎成勝寺町9-1

主催：京都商工会議所

共催：京都府、京都市、(独)中小企業基盤整備機構(公財)京都産業21、(公財)京都高度技術研究所、京都産業育成コンソーシアム

お問合せ：京都商工会議所 知恵産業推進室 TEL 075-212-6470

アクセス

- 京都駅から 地下鉄烏丸線「烏丸御池」駅で乗換え、地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩約8分
 ・市バス5、100系統「京都府会館・美術館前」下車すぐ
 ・タクシー約17分
- 阪急河原町から 市バス5、32、46系統「京都府会館・美術館前」すぐ
 ・タクシー約6分
- 三条京阪から 市バス5系統「京都府会館・美術館前」すぐ
 ・徒歩約14分

※お越しの際は、公共交通機関をご利用ください。

イマドキ京都、勢ぞろい!

京都ならではの魅力を持った商品と出会って
ビジネスチャンス 拡大!

きらりと光る
120社が出展

京都商工会議所
イチオシ商品

Kyoto Millennium Showcase

インテリア雑貨、ファッション、コスメ
食品、エコ商品 ...etc

大規模展示会ではお目にかかれない
小規模事業者さんも多数参加

日時 平成25年11月1日(金) 10:00~16:00

会場 京都市勧業館「みやこめっせ」

京都商工会議所



知恵ビジネスメッセ Kyoto Millennium Showcase

出展者一覧

1 京都のコンテンツを保存・活用 株式会社アーテファクトリー	2 ファッションで使う鳥匠系 株式会社アヴリル	3 看板商品ピーナッツせんべい 株式会社青木光悦堂	4 アロマ消臭剤「古都呼吸」 有限会社アップル・ワイズ	5 象嵌をもっと身近に アマタ株式会社
6 立体感が魅力的絞リバッグ アンドウ株式会社	7 貼って割がす舗装工法 株式会社石川建設	8 食材の旨みを生かした焼菓子 株式会社石田老舗	9 熱に強く使いやすい木の器 株式会社井助商店	10 京都発の感動エンターテインメント 有限会社一九二八
11 ドライ無花果(いちじく)の新食感 有限会社一善や	12 メイク崩れしにくいあふら取り紙 株式会社いちほら	13 京都生まれの自然派化粧品 株式会社一壺	14 絹織物の空間装飾品 株式会社伊と幸	15 高い保温力で睡眠をサポート 株式会社イワタ
16 胡粉のニールケア 上羽絵巻株式会社	17 手置きの温もりを紙袋に 上村紙株式会社	18 有慶格子のカジュアルバッグ 株式会社宇野商店	19 京都老舗のユーモラスな手拭 株式会社水菜屋	20 着少な三輪織物の生地 近江屋株式会社
21 自設可能な獣害防止柵 近江屋ロープ株式会社	22 炭素素材を美容健康に活用 株式会社大木工藝	23 目で楽しむ四季の京菓子 岡本製菓株式会社	24 古い着物をギフトに再生 彼方此方屋	25 思い出の商品をリメイク 株式会社織産
26 シンプルプライスの高品質スーツ 株式会社オンリー	27 アバンギャルドな絞リ製品 片山文三郎商店	28 組み合わせ自由な真珠製品 有限会社カムデン	29 老舗の和洋スイーツ 亀屋良長株式会社	30 金属板に描く彫刻アート 川並鉄工株式会社
31 和洋折衷な装いを演出する革靴 吉靴房	32 食卓で楽しむ純金箔 木村金属箔粉工業株式会社	33 人生を楽しむ外出を後押し 株式会社キャビック	34 洗練された食感と味覚の琥珀菓子 京菓苑株式会社花ゆう	35 太陽光発電を支える新技術 共進電機株式会社
36 豆の風味が薫る煎餅 株式会社京・月待庵	37 金襴とスエードのコラボ商品 株式会社京都インハラ	38 自転車で巡る界隈観光 有限会社京都サイクリングツアープロジェクト	39 体に優しい京野菜スイーツ 株式会社京都はんり本舗	40 深黒染めのデニムブランド 株式会社京都敬付

41 新食感。京の凍りわらび餅 京西陣菓匠 奈禪有限公司	42 京都産ナチュラル石けん 株式会社京のくすり屋	43 モダン可愛いトートバッグ 京美染色株式会社	44 旬の食材で作るお味の味 有限会社京フーズ	45 京友禅の美をインテリアに 京朋株式会社
46 癒しを届ける間接照明 株式会社京萌工藝	47 木と皮の魅力あふれる靴 京洛工藝株式会社	48 和漢植物配合のスキンケア 株式会社京LOCO	49 手織りのファッション クスカ株式会社	50 百花の柄が美しい京焼物 株式会社熊谷聯商店
51 風味あふれる野菜スイーツ 有限会社グランブルー	52 幻のスポーツカー EVで復活 グリーンロードモーターズ株式会社	53 食用の金箔ギフト クリスタルローズ	54 和生地をタブレットケースに 株式会社黒香餅工房	55 布アートを世界に 光章
56 九条ネギの味わいを家庭に こと京都株式会社	57 京野菜のスキンケアクリーム 株式会社コトラボ	58 薄板金属で熱の課題を解決 株式会社最上インクス	59 土づくりを大切にしたい農作物 株式会社坂ノ途中	60 京の蔵元が作る健康飲料 佐々木酒造株式会社
61 簡単手軽なおはらいキット 株式会社真田	62 費用対効果抜群のエコ窓 サンウインド株式会社	63 フリー加工の身の回り品 株式会社三協	64 作って飾るペーパークラフト 株式会社さんけい	65 目でも楽しめる風呂敷 三陽商事株式会社
66 世界の新野菜を提案 有限会社種ファーム	67 香りで綴る源氏物語の世界 株式会社松栄堂	68 文具に生きる和紙の風合い 株式会社尚雅堂	69 もっちりもちのバウムクーヘン スーセス ヴェグトウス	70 日常使いのワイフ和雑貨 スーベニール株式会社
71 インド向けコンテンツ開発 株式会社ゼロ・サム	72 一点ものぬれ描き友禅 染のあらたに	73 100%コットンの柔らかく寝具 大東寝具工業株式会社	74 伝統文様をモダンに復刻 高橋機染株式会社	75 バイソン柄の新しい生地素材 株式会社立野矢
76 思い出を収納するケース 株式会社田中ケース	77 京都を丸ごと食べるラスク 株式会社たにくち	78 自家焙煎する手作りチョコレート Dari K株式会社	79 石臼で挽き上げた宇治抹茶 株式会社ちきりや	80 老舗が作るシルバークラセリー 株式会社竹影堂

今すぐWebサイトをチェック!!

出展者データベース

<http://www.kyo.or.jp/messe2013/>

京都のイマドキ企業の情報を満載。出展商品の魅力や見どころなど、コンテンツが盛りだくさん。

81 先端機器の検査装置 株式会社TIKUSON	82 漆塗りの最高級ステッキ 株式会社つえ屋	83 あらゆる生活シーンで使う襟紙 株式会社辻商店	84 アロマの香り漂う京焼根付 株式会社土田人形	85 引き染め技法のかぼと小物 有限会社慶染工
86 立体感あふれるフロッキーTシャツ 株式会社ティーヘッド	87 小物に映える金銀系の輝き 株式会社寺島保太良商店	88 100%リサイクルの資源循環型土 東和スポーツ施設株式会社	89 新感覚“見える”包装材 株式会社中川パッケージ	90 新りの京念珠をファッションに 株式会社中野伊助
91 高機能ウェアスーツ 有限会社ナチュラルエナジー	92 産業廃棄物から作る高品質PPF 日本ウエスト株式会社	93 大切なものを守る換水加工技術 株式会社パールトーン	94 リノベーション京町家 株式会社八清	95 京都の伝統食材「京麸」 株式会社半兵衛結
96 エコ&デザインの晴雨兼用傘 株式会社日吉屋	97 どんな家でも修理・リメイク フィールドアロー株式会社	98 光ファイバーの照明器具 株式会社フィルノット	99 ガラス加工のインテリア 株式会社フェイス	100 エンジンオイルの量り売り 株式会社FUKUDA
101 祥瑞家紋を散りばめたグッズ PLANNING&DESIGN 山童	102 世界に誇る京都の幅広織物 株式会社細尾	103 大人の香り漂う日本酒ケーキ 有限会社本たちばな	104 宇治抹茶が香るスイーツ 株式会社まみち園	105 京からかみのインテリア 株式会社丸二
106 甲冑の造形が美しい細いバッグ 有限会社み開け	107 こたわり館のスイーツ 都製館株式会社	108 電気自動車用急速充電車 株式会社三輪タイヤ	109 西陣金襴で格調高い回廊を再現 信崎織物株式会社	110 アウター感覚のステテコ 株式会社山城
111 職人手作りの無添加ごま製品 株式会社山田製油	112 画面染めのモダンな風呂敷 山田織物株式会社	113 天然緑のスキンケア 株式会社山中油店	114 トッピングで味わう京野菜 株式会社ユースサイド	115 京友禅で染め上げた牛革製品 株式会社遊博庵
116 本煤竹を患いた意匠者 有限会社横山竹材店	117 麻の温もりをタペストリーに 株式会社ルシエール・ジュパン	118 和紙が彩る生活雑貨 株式会社和紙来歩	119 帯締めをアクセサリーに 渡敬株式会社	120 手描き友禅のオリジナル雑貨 株式会社遊辺花鳥園

知恵をカタチに顧客を創造!

■知恵ビジネスプランコンテストとは?

知恵ビジネスプランコンテストは、強みを活かした知恵によって中小企業が顧客に新たな価値を提供しようとするビジネスプランを公募し、専門家等による様々な角度からの審査・評価を通じて、「知恵ビジネス」として認定・公表するものです。認定を受けた企業には、きめこまかなハンズオン支援を継続的に実施し、専門家との連携、各支援機関の施策活用等も図りながら、認定プランの実行・実現、“顧客創造”を支援します。

公募期間 平成25年**10月22日(火)~11月29日(金)**
17時 必着

認定特典

「経営支援員×専門家」によるハンズオン支援

京都商工会議所の経営支援員が担当となり、継続的にハンズオン支援を行います。経営課題に合わせて専門家と連携するとともに、国・京都府・京都市等の支援施策も活用しながら、個別課題に対してきめ細かな対応を行います。

—ともに悩み考え、探し・動き、そして作る—

認定プランに対する支援例

【経営戦略・マーケティング】

学識者・支援機関等による戦略会議の開催、個別経営課題に対する専門家派遣の実施等、経営戦略の構築から、商品開発・販路開拓、財務・労務・法務等の具体的課題解決まで、事業運営を幅広く助言します。

【広報・プロモート】

本所新聞広告欄・会報誌等による認定企業の紹介、メルマガ・ブログによる新商品・サービス情報発信、プレスリリースのサポート等、企業やその取組の認知度向上を図ります。

【交流・マッチング】

京都商工会議所のネットワークをフル活用し、企業間の交流、取引先の紹介や、展示会出展サポート等により、販路開拓を支援します。

【資金・助成金申し込み】

認定プランの内容や進捗状況に合う公的認定制度、助成金(応援ファンド等)、融資(京都府中小企業融資制度、等)の活用検討、申請書作成に対する支援等を行い、認定プランの実行をサポートします。

【対外的評価の向上】

知恵ビジネス認定事業であることを記した認定書を発行することなどにより、第三者からの評価も高まります。

「ハンズオン支援」を受けて —認定企業のご感想— (第3回知恵ビジネスプランコンテスト認定)

「エコ窓」の開発と「ウインドウ・コンシェルジュサービス」



サン・ウインド株式会社〔高橋社長のコメント〕

紙に書いたビジネスプランを具体的に実践するのは容易ではありません。京都商工会議所のハンズオン支援では、事業化までのロードマップを分かりやすく示してもらい、マーケティングの検討や財務分析などを通じた経営戦略の再構築とともに、エコ窓の商品改良のために製造委託先の紹介、パンフレットの制作支援など、その時々課題に応じてきめ細かなフォローをしてもらいました。

ふんわり柔らかかオリジナル・フロッキー技法を活かしたブランド展開



株式会社ティーヘッド〔吉田社長のコメント〕

自社商品に自信があっても、弊社のような小さな会社が大手メーカーとの連携やパイヤーとつながる機会は限られます。商工会議所の仲介やサポートによって、アパレル・ファッション展示会等への出展も叶い、弊社のデザイン性と技術力が評価されたことで、大手アパレルメーカーや雑貨メーカー等とのコラボレーションが実現しました。コンテスト認定によりフロッキー加工の認知度も高められ、従来と異なる販路を開拓でき、今後の方向性が広がりました。



知恵産業のまち・京都の推進
京都商工会議所



京都産業育成コンソーシアム

この事業は、京都産業育成コンソーシアム
連携事業です。

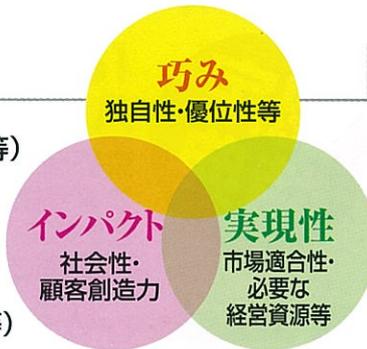
公募対象

京都の特性や企業独自の強みを活かしながら、
新たな知恵によって自社ならではのビジネスモデルや技術、
あるいは商品・サービスを開発し、“顧客創造”を実現するビジネスプラン
〔例〕

- 地域の特性を活用した新商品の提供によって京都のブランド創出・発信につながる事業
- 伝統技術・産品等を活用して新たな生活文化の提供や商取引を実現する事業
- 自社や業界の課題に加えて、環境、少子・高齢社会等の社会課題も解決する事業
- 大学や行政機関等と連携して開発したユニークな新商品を提供する事業
- 農林漁業者との共同、または異なる分野の事業者が連携して新たな価値を創出する事業等

審査基準

- ☑ 知恵の使いどころが**巧み**(独自性、競合優位性等)
- ☑ 知恵の使いどころが与える**インパクト**(社会性、顧客創造力等)
- ☑ 知恵ビジネスの**実現性**(事業計画の熟度、市場適合性、必要な経営資源の確保等)



応募資格

京都府内に活動拠点を置く中小企業者
(法人・個人事業者)

応募方法

- 所定の「**申請書**」(必須)、
「**会社概要・商品説明資料等**」(任意)を
Eメールにて下記アドレス宛にお送りください。

E-mail : bmpj@kyo.or.jp

- 申請書は下記ホームページから入手してください。
<http://www.kyo.or.jp/chie/contest/>

第5回知恵ビジネスプランコンテスト

検索

※平成25年11月29日(金)17時必着
受信確認メールをもって応募完了とします。

申請書作成支援に関するご相談等を随時受け付けております。

◇注意事項◇

- ・提出された書類は返却いたしません。
- ・申請書以外に審査に必要な書類の提出・閲覧を求めることがあります。
- ・提出された書類の内容に関して、事務局は一切責任を負いません。
- ・提出された内容について秘密は厳守いたしますが、特別のノウハウや営業上の秘密事項については、法的保護を行う等、応募者の責任で対応してください。
- ・応募企業が認定を受けた場合、企業名、代表者名、住所、電話番号、プランテーマ・概要等について公表することに同意いただけたものとして取り扱います。

当コンテスト内容や申請書作成に関するご質問・ご相談は、
下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

募集スケジュール

公募期間

平成25年
10月22日(火)~11月29日(金)

申請書作成支援メニュー

- ・プレセミナー
(7月下旬又は8月)
- ・知恵ビジネス創出塾
(9月~10月)
- ・ブラッシュアップ専門家相談
(11月中旬予定)
- ・個別アドバイス(随時)

1次審査(書面) 平成25年12月

1次審査通過企業

実地調査

平成26年
1月6日(月)~22日(水)
※決算書(2期分)の写しを
ご提出いただきます。

2次審査(面接) 平成26年2月3日(月)

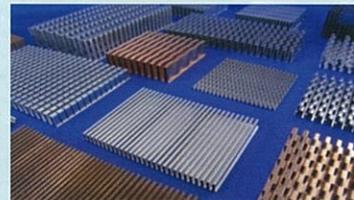
認定プラン発表会
平成26年2月下旬又は3月上旬

第4回 知恵ビジネスプランコンテスト 認定プラン

企業名50音順



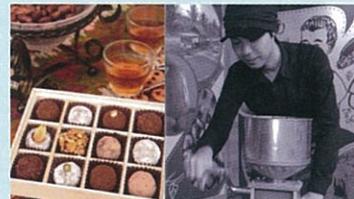
和と洋の文化・技術・素材を融合した
デザート・カフェおよびギフト商品
亀屋良長株式会社



薄板金属で熱の課題を解決する
イノベーションパートナー
株式会社最上インクス



清酒の麴糖化技術を活用した
天然糖化飲料及び食品原料
佐々木酒造株式会社



カカオを現地発酵・自家焙煎した
高級チョコレート材料の生産と販路開拓
Dari K株式会社



業界初の「IBCローリーサービス」による
エンジンオイルの販売システム
株式会社FUKUDA



走行用エンジンで発電する
自己完結型EV用急速充電車
株式会社三輪タイヤ

京都府の平成26年度 予算に関する要望

平成25年10月



京都商工会議所

京都府知事 山田啓二様

京都府の平成26年度予算に関する要望

京都府におかれましては、日頃から府民生活の向上のため、府内産業の振興に尽力され、本所事業にご指導・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、日本経済は政府の大胆な政策や成長戦略の実行、財政健全化への取り組みへの期待が高まり、景気に明るい材料も見られますが、消費増税による価格転嫁や個人消費の動向、円高解消や電気料金値上げによる原材料価格の高騰など、なお多くの懸念材料を抱えており、本所会員の大半を占める中小・小規模事業者は外部環境の変化への対応に苦慮しているというのが現状です。

このような中、本所では、自社の強みや京都の地域資源を生かし、新たな知恵を発揮することで、独自性の高いモノやサービスを創り出す小さくともキラリと光る知恵ビジネスが、様々な産業群として集積する「知恵産業のまち・京都の推進」に鋭意取り組んでおります。平成26年は本所としましても新しい役員・議員体制となりますが、引き続き知恵ビジネスが更に広がりを見せ、「知恵の連鎖」を促す事業を展開していくこととしております。京都府におかれましては、こうした本所の方針をご理解いただき、「京都産業育成コンソーシアム」による知恵産業推進共同プロジェクトなど、オール京都で具体的な取組みが推進されていることを大変心強く思っております。

また、京都の未来を考える懇話会において、本年5月に30年後の京都のありたい姿「京都ビジョン2040」が発表されましたが、京都府におかれましては、京都市や本所をはじめとする関係機関との緊密な協調のもとに、ビジョンの実現に向け魅力あるまちづくりや社会基盤の整備、産業振興などの施策の立案・実施に努めていただきたいと思います。特に「価値創造都市・京都」の実現のために、京都経済の活力の源泉である中小・小規模事業者に対する経営の安定、さらなる成長への支援をはじめとした産業振興の取組みを最重点課題の一つとして強力に推進いただきますようお願い申し上げます。

厳しい財政下ではございますが、本所は京都府の平成26年度の予算の編成にあたり、以下の項目を要望いたします。

平成25年10月

京都商工会議所 会頭 立石義雄

I. 府市協調の推進

重点 1. 「京都経済センター」の実現

「京都経済センター」の建設は、京都経済界の長年の悲願であり、現在、京都府、京都市および経済界のオール京都体制で実現に向けて検討を進めているところである。

「京都経済センター」は、京都の情報発信、産業振興、中小企業の育成・支援の中核施設と期待されており、早期実現に向けて積極的な参画・支援を強く要望する。

重点 2. オール京都による次代を担う産業育成施策の充実・強化

次代を担う中小企業や産業分野の成長をいち早く図るためには、府・市・経済界が一丸となり、「京都産業育成コンソーシアム」や「京都産学公連携機構」の運営などを通じて、長期的な視点から効率的・効果的な産業育成施策を展開することが不可欠である。

については、オール京都による「イノベーションの都」推進宣言の具体化に向けた各種施策を積極的に推進するとともに、「京都産学公連携機構」の事務局体制を充実・強化するために必要な予算・人員を確保されたい。

3. 低エネルギー社会の推進に向けた施策の推進（新規）

エネルギーの安定供給の見通しが不透明であることや、家庭や業務部門で増加しているエネルギー消費に対処するためには、省力化を進める技術革新とその普及が今まで以上に必要となってくる。「京都産業エコ・エネルギー推進機構」など関係する機関との連携のもと、エネルギー消費を低減させながらも、成長を実現する京都発の「低エネルギー」社会の実現を目指し、中小企業にとってメリットの大きい新たな施策の充実・強化を図られたい。

Ⅱ. 知恵ビジネス・中小企業支援

重点

1. 知恵産業創造に意欲的な中小企業への支援のさらなる拡充

本所では、「知恵産業のまち・京都」の実現に向け、その源泉となる知恵ビジネス企業の創出・発展に積極的に取り組んでいる。

「京都産業育成コンソーシアム」においても、「知恵産業推進共同プロジェクト」のもと、京都知恵産業支援共同事業の実施や「京・知恵舞台」による知恵の認証制度の普及など、オール京都による活動へと広がりを見せている。

今後、知恵ビジネスをはじめとする成長志向型中小企業の誘発と多様な知恵ビジネス産業群の集積を図るために、公的認定制度や補助制度などの支援施策をより一層充実されるとともに、類似する支援施策を効率化するため、さらなる共同化を図られたい。とりわけ、「知恵ビジネスプランコンテスト」認定事業や「創造的文化産業モデル企業」選定事業などの本所が認定・選定する企業の事業活動に対する支援施策の確保・充実を図られたい。

2. 中小企業のアジアビジネス支援

地域の中小企業の持続的な成長を促すためには、中国をはじめとする東アジアの旺盛な消費を取り込んでいくことが重要である。

京都府上海ビジネスサポートセンター等との連携により中小企業のアジアビジネスへの支援体制の充実を図り、意欲ある中小企業の海外展開の挑戦を支援されたい。

3. 販路開拓事業の支援強化（新規）

本所が実施している京都ブランド海外市場開拓事業「Kyoto Connection」やファッション京都推進協議会による国内販路開拓事業「project kyo-to」については、毎年多くの事業者から参加応募があり、新規顧客の獲得などの成果が挙がっている。ついでには、こうした取り組みが持続的に実施できるよう一層の支援充実を図られるとともに、これまで蓄積してきたノウハウやネットワークを活用し、伝統産業のみならず、あらゆる分野での中小企業の販路開拓支援の強化を図られたい。

重点

4. 中小企業経営支援の一層の強化

中小企業応援隊は、府内の商工会議所・商工会等が共通認識のもと一体となっ

て経営支援を行う取り組みであり、応援隊員の情報交換や経営支援の質の向上により一層努められたい。同時に、各団体が主体的に取り組む経営支援活動の円滑な推進に配慮されたい。

また、経営革新等支援機関等を活用した国の支援施策が拡充されており、今後はさまざまな施策を地域事情に合わせて有効に活用することが重要と考える。ついでには、京都府施策の実施にあたっては、国施策との一体的・効果的な展開に努められたい。

さらに、中小・小規模事業者への経営支援の重要性に鑑み、経営支援員への補助金の充実を図られたい。

5. 中小企業金融支援の強化

燃料や原材料などのコスト増をはじめ、消費税の転嫁対策など、中小・小規模事業者は経営課題が山積している。金融機関や信用保証協会等と連携を密にし、地域経済を支える中小・小規模事業者の資金繰りに支障が生じないように、府・市協調制度融資の拡充をはじめ、返済猶予や条件変更への柔軟な対応など、万全の対策を講じられたい。

6. 伝統産業への支援

京都は我が国を代表する伝統産業の集積地であるが、生活様式の変化等により伝統産業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。

ついでには、日本の伝統と文化を支える、和装をはじめとする伝統産業のさらなる振興のため、各種団体・事業への積極的な参画・支援を図られたい。

7. 小売商業・商店街への支援

市内小売業の商店数は、平成11年以降は減少傾向にあり、小売商業・商店街を取り巻く環境は極めて厳しい状況にある。

意欲と創意あふれる事業者の取組みに対して積極的な支援を図られるとともに、地域の商業活性化を牽引し得る意欲的な人材・個店の育成や事業承継・創業支援のための施策を一層充実されたい。

また、空き店舗をコミュニティ施設等として整備・運営する商業団体への支援や、活力ある事業者の商店街への誘致支援など、魅力的な商店街づくりへの施策を推進されたい。

Ⅲ. 創造都市・京都の推進

重点 1. MICE の戦略的推進

国内外の MICE 誘致環境が激しくなる中、主催者の多様なニーズに対応できるコンベンション施設・機能の整備とネットワークの強化、マーケティング戦略の高度化、官民を挙げた都市プロモーションなど、MICE 誘致への取り組みが重要かつ喫緊の課題であり、そのための施策を戦略的に推進されたい。

2. 観光産業の構造転換の推進

国内外の宿泊客拡大のため、旅館・ホテルなどの宿泊施設の受入れ能力や質の向上、増加する海外からの観光客等に対する、顧客志向の受入れ体制構築と府市民の意識醸成のための支援施策を推進されたい。

また、地元観光関連事業者の接客サービスやおもてなしの向上とともに、国内の京都ファンの裾野を拡大する「京都・観光文化検定試験」を、観光の質的転換のツールの一つとして、積極的に支援されたい。

重点 3. 平成26年度青年部全国大会・京都開催への支援（新規）

日本商工会議所青年部第34回全国大会が、平成27年2月、京都府商工会議所青年部連合会の主管により京都で開催される。開催地となる本所青年部では過去最高となる7,000人の参加を目標に、次代を先導する青年経済人としての交流と研鑽、さらには京都地域経済振興に寄与するべく、京都らしい大会を目指して準備を進めている。

については、京都大会において実り多い成果が得られるよう、財政支援を図られたい。

重点 4. 京都ブランド発信事業への支援

京都ブランド推進協議会が実施している「京都創造者大賞」は、毎年300近い応募があるなど年々認知度が高まっており、「京都ブランド」のイメージアップや京都の都市格向上に著しく貢献している個人・法人等の功績を讃え、国内外に広く知らしめている。この賞が日本を代表する見識の高い顕彰制度として定着するよう、より一層の支援、協力を図られたい。

また、民間事業者が行う、京都の優れた産業や技術、サービス等を広く海外に発信し、京都ブランドの価値向上や京都産業の発展に寄与する事業に対しての補

助制度を創設されたい。

5. KYOTO CMEX への支援

京都の次代を牽引する新しい分野としてクリエイティブ産業の振興は重要である。については、「KYOTO CMEX」を、コンテンツ業界のクロスメディア展開によるビジネスマッチングやコンテンツ業界を支えるクリエイティブ人材の育成・交流を図る事業として、一層の充実並びに国内外への発信強化を図られたい。

6. 「小倉百人一首殿堂 時雨殿」の積極的活用

「古典の日に関する法律」が成立したことを受け、古典の普及や活用を図り、人材育成や文化的に豊かな生活の実現に向けた取り組みが一層必要となる。

本所では、「小倉百人一首殿堂 時雨殿」において、古典の普及・活用に向けた取り組みを充実したいと考えており、必要な財政支援を講じられたい。

7. 産業空洞化対策と雇用拡大のための企業立地の促進

京都の産業基盤強化、経済発展の促進、雇用の場の拡大を図るには、新たな企業誘致と、既存企業の他府県への移転防止が必要である。とりわけ、京都第二外環状道路をはじめ、京滋バイパスや第二京阪道路等の整備で交通アクセスが飛躍的に向上しており、用地需要の高い京都府南部地域における企業立地適地の確保を積極的に推進されたい。

8. 「京都スタジアム（仮称）」の早期建設着工

スタジアムを中心としたスポーツ振興やまちづくり推進、あるいは地域の防災拠点としても活用されるよう、関係者の意見を十分に聴取したうえで、早期に着工されたい。また、スポーツ振興、ひいてはにぎわいの創出・まちづくりの推進に広がりを持たせるよう、スタジアムを中心とした地域活性化方策を併せて検討されたい。

9. 産業振興を支える都市基盤の整備

京都縦貫自動車道の全線、新名神高速道路の早期全線完成を促進されたい。

京都舞鶴港については、東アジアとの貿易や人的交流の観点から、関西経済圏の環日本海対岸諸国へのゲートウェイとして、港湾へのアクセスや利用料の優遇など、企業の利用促進のための条件整備を推進するとともに、中国、韓国、ロシ

ア沿岸部との定期航路を早期に実現されたい。

10. リニア中央新幹線の「京都駅ルート」実現の推進

国の経済成長戦略の柱である観光立国を推進するためにも、オール京都で「京都駅ルート」の実現に向けた取組みを推進されたい。

11. 関西文化学術研究都市の整備促進

国からの譲渡が決まった旧「私のしごと館」をオープンイノベーション拠点として整備し、国内外から資金や優秀な人材を惹きつけ、国際的に競争力のある研究開発拠点とするため、産学公連携のもと具体的な活用方法を検討されたい。

また、検討にあたっては、研究成果の早期実用化を図るためにも、ニーズ志向の企業や意欲的な研究開発型の中堅・中小企業が数多く参画できる活用スキームを構築されたい。併せて、推進体制や財政などの観点から、中長期的に持続可能な運営がなされるよう十分に考慮されたい。

12. 防災・減災対策について（新規）

また、平成25年9月の台風18号の豪雨・浸水被害に鑑み、国や京都市と連携のもと、地元商工業者や住民の理解を得たうえで、必要な治水対策に取り組まされたい。

IV. 人づくり支援

1. 産業人材育成施策の強化・拡充

「京都産業育成コンソーシアム」では、各機関が実施する事業情報を一元化して情報サイトを web 上に開設して情報発信するとともに、「京都産業人材育成計画」に基づき、各種施策の推進と各機関が連携して取り組む共同事業について実施協議を進めている。

引き続き、それぞれの産業支援機関のより効果的な事業展開を促すとともに、企業においても社会情勢の変化に対応しうる産業人材の育成が推進されるよう、助成制度を充実するなど総合的・体系的な観点から、人材育成施策・支援を強化・拡充されたい。

2. 雇用対策のさらなる充実

雇用失業情勢に対応するため、雇用創出事業の充実を国に要請されたい。

また、当所が企業向けに取り組んでいるジョブ・カード制度については、「ジョブ・カード制度京都府地域推進計画」に沿って、企業への制度普及を支援されたい。

さらに「中小企業人財確保センター」については、人材確保のための情報やノウハウが少ない中小企業にとって意義深い支援拠点であることから、より充実・強化に努められたい。

3. 京都経済の持続的発展を支える人材育成

京都経済の持続的発展を支えていく人材育成のためには、企業と社会が求める人材像と学校教育とを結ぶ必要がある。学校教育現場における単なる学科学習にとどまらず、実社会で必要な実学（簿記など）を学び、早い時期から社会人としての基礎力を身に付けるなど、世界に通用する人材を地域社会全体で育成する教育プログラムづくりに積極的に取り組まれたい。

以 上

京都市の平成26年度 予算に関する要望

平成25年10月



京都商工会議所

京都市長 門川大作様

京都市の平成26年度予算に関する要望

京都市におかれましては、日頃から市民生活の向上のため、市内産業の振興に尽力され、本所事業にご指導・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、日本経済は政府の大胆な政策や成長戦略の実行、財政健全化への取り組みへの期待が高まり、景気に明るい材料も見られますが、消費増税による価格転嫁や個人消費の動向、円高解消や電気料金値上げによる原材料価格の高騰など、なお多くの懸念材料を抱えており、本所会員の大半を占める中小・小規模事業者は外部環境の変化への対応に苦慮しているというのが現状です。

このような中、本所では、自社の強みや京都の地域資源を生かし、新たな知恵を発揮することで、独自性の高いモノやサービスを創り出す小さくともキラリと光る知恵ビジネスが、様々な産業群として集積する「知恵産業のまち・京都の推進」に鋭意取り組んでおります。平成26年は本所としましても新しい役員・議員体制となりますが、引き続き知恵ビジネスが更に広がりを見せ、「知恵の連鎖」を促す事業を展開していくこととしております。京都市におかれましては、こうした本所の方針をご理解いただき、「京都産業育成コンソーシアム」による知恵産業推進共同プロジェクトなど、オール京都で具体的な取組みが推進されていることを大変心強く思っております。

また、京都の未来を考える懇話会において、本年5月に30年後の京都のありたい姿「京都ビジョン2040」が発表されましたが、京都市におかれましては、京都府や本所をはじめとする関係機関との緊密な協調のもとに、ビジョンの実現に向け魅力あるまちづくりや社会基盤の整備、産業振興などの施策の立案・実施に努めていただきたいと思います。特に「価値創造都市・京都」の実現のために、京都経済の活力の源泉である中小・小規模事業者に対する経営の安定、さらなる成長への支援をはじめとした産業振興の取組みを最重点課題の一つとして強力に推進いただきますようお願い申し上げます。

厳しい財政下ではございますが、本所は京都市の平成26年度の予算の編成にあたり、以下の項目を要望いたします。

平成25年10月

京都商工会議所 会頭 立石義雄

I. 府市協調の推進

重点 1. 「京都経済センター」の実現

「京都経済センター」の建設は、京都経済界の長年の悲願であり、現在、京都府、京都市および経済界のオール京都体制で実現に向けて検討を進めているところである。

「京都経済センター」は、京都の情報発信、産業振興、中小企業の育成・支援の中核施設と期待されており、早期実現に向けて積極的な参画・支援を強く要望する。

重点 2. オール京都による次代を担う産業育成施策の充実・強化

次代を担う中小企業や産業分野の成長をいち早く図るためには、府・市・経済界が一丸となり、「京都産業育成コンソーシアム」や「京都産学公連携機構」の運営などを通じて、長期的な視点から効率的・効果的な産業育成施策を展開することが不可欠である。

については、オール京都による「イノベーションの都」推進宣言の具体化に向けた各種施策を積極的に推進するとともに、「京都産学公連携機構」の事務局体制を充実・強化するために必要な予算・人員を確保されたい。

3. 低エネルギー社会の推進に向けた施策の推進（新規）

エネルギーの安定供給の見通しが不透明であることや、家庭や業務部門で増加しているエネルギー消費に対処するためには、省力化を進める技術革新とその普及が今まで以上に必要となってくる。「京都産業エコ・エネルギー推進機構」など関係する機関との連携のもと、エネルギー消費を低減させながらも、成長を実現する京都発の「低エネルギー」社会の実現を目指し、中小企業にとってメリットの大きい新たな施策の充実・強化を図られたい。

Ⅱ. 知恵ビジネス・中小企業支援

重点

1. 知恵産業創造に意欲的な中小企業への支援のさらなる拡充

本所では、「知恵産業のまち・京都」の実現に向け、その源泉となる知恵ビジネス企業の創出・発展に積極的に取り組んでいる。

「京都産業育成コンソーシアム」においても、「知恵産業推進共同プロジェクト」のもと、京都知恵産業支援共同事業の実施や「京・知恵舞台」による知恵の認証制度の普及など、オール京都による活動へと広がりを見せている。

今後、知恵ビジネスをはじめとする成長志向型中小企業の誘発と多様な知恵ビジネス産業群の集積を図るために、公的認定制度や補助制度などの支援施策をより一層充実されるとともに、類似する支援施策を効率化するため、さらなる共同化を図られたい。とりわけ、「知恵ビジネスプランコンテスト」認定事業や「創造的文化産業モデル企業」選定事業などの本所が認定・選定する企業の事業活動に対する支援施策の確保・充実を図られたい。

2. 中小企業のアジアビジネス支援

地域の中小企業の持続的な成長を促すためには、中国をはじめとする東アジアの旺盛な消費を取り込んでいくことが重要である。

京都府上海ビジネスサポートセンター等との連携により中小企業のアジアビジネスへの支援体制の充実を図り、意欲ある中小企業の海外展開の挑戦を支援されたい。

3. 販路開拓事業の支援強化（新規）

本所が実施している京都ブランド海外市場開拓事業「Kyoto Connection」やファッション京都推進協議会による国内販路開拓事業「project kyo-to」については、毎年多くの事業者から参加応募があり、新規顧客の獲得などの成果が挙がっている。ついでには、こうした取り組みが持続的に実施できるよう一層の支援充実を図られるとともに、これまで蓄積してきたノウハウやネットワークを活用し、伝統産業のみならず、あらゆる分野での中小企業の販路開拓支援の強化を図られたい。

重点

4. 中小企業経営支援の一層の強化

中小・小規模事業者の経営課題が多様化・複雑化する中で、相談者のニーズに

対応した経営支援活動を積極的に展開することが求められている。

平成24年度から、経営支援員の増員をはじめ本所の経営支援体制を強化するとともに、重複する経営相談窓口を本所へ統合されたことは、京都市域における効果的・効率的・一体的な支援を推進するうえで極めて意義のある取組みである。相談件数や支援実績も顕著に増加している。

引き続き、本所との連携を強化し、経営支援施策の拡充・強化を図りたい。

5. 中小企業金融支援の強化

燃料や原材料などのコスト増をはじめ、消費税の転嫁対策など、中小・小規模事業者は経営課題が山積している。金融機関や信用保証協会等と連携を密にし、地域経済を支える中小・小規模事業者の資金繰りに支障が生じないよう、府・市協調制度融資の拡充をはじめ、返済猶予や条件変更への柔軟な対応など、万全の対策を講じられたい。

6. 伝統産業への支援

京都は我が国を代表する伝統産業の集積地であるが、生活様式の変化等により伝統産業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。

については、日本の伝統と文化を支える、和装をはじめとする伝統産業のさらなる振興のため、各種団体・事業への積極的な参画・支援を図られたい。

7. 小売商業・商店街への支援

市内小売業の商店数は、平成11年以降は減少傾向にあり、小売商業・商店街を取り巻く環境は極めて厳しい状況にある。

意欲と創意あふれる事業者の取組みに対して積極的な支援を図られるとともに、地域の商業活性化を牽引し得る意欲的な人材・個店の育成や事業承継・創業支援のための施策を一層充実されたい。

また、空き店舗をコミュニティ施設等として整備・運営する商業団体への支援や、活力ある事業者の商店街への誘致支援など、魅力的な商店街づくりへの施策を推進されたい。

Ⅲ. 創造都市・京都の推進

重点

1. MICE の戦略的推進

国内外の MICE 誘致環境が激しくなる中、主催者の多様なニーズに対応できるコンベンション施設・機能の整備とネットワークの強化、マーケティング戦略の高度化、官民を挙げた都市プロモーションなど、MICE 誘致への取り組みが重要かつ喫緊の課題であり、そのための施策を戦略的に推進されたい。

2. 観光産業の構造転換の推進

国内外の宿泊客拡大のため、旅館・ホテルなどの宿泊施設の受入れ能力や質の向上、増加する海外からの観光客等に対する、顧客志向の受入れ体制構築と府市民の意識醸成のための支援施策を推進されたい。

また、地元観光関連事業者の接客サービスやおもてなしの向上とともに、国内の京都ファンの裾野を拡大する「京都・観光文化検定試験」を、観光の質的転換のツールの一つとして、積極的に支援されたい。

重点

3. 平成26年度青年部全国大会・京都開催への支援（新規）

日本商工会議所青年部第34回全国大会が、平成27年2月、京都府商工会議所青年部連合会の主管により京都で開催される。開催地となる本所青年部では過去最高となる7,000人の参加を目標に、次代を先導する青年経済人としての交流と研鑽、さらには京都地域経済振興に寄与するべく、京都らしい大会を目指して準備を進めている。

については、京都大会において実り多い成果が得られるよう、財政支援を図られたい。

重点

4. 京都ブランド発信事業への支援

京都ブランド推進協議会が実施している「京都創造者大賞」は、毎年300近い応募があるなど年々認知度が高まっており、「京都ブランド」のイメージアップや京都の都市格向上に著しく貢献している個人・法人等の功績を讃え、国内外に広く知らしめている。この賞が日本を代表する見識の高い顕彰制度として定着するよう、より一層の支援、協力を図られたい。

また、民間事業者が行う、京都の優れた産業や技術、サービス等を広く海外に発信し、京都ブランドの価値向上や京都産業の発展に寄与する事業に対しての補

助制度を創設されたい。

5. KYOTO CMEX への支援

京都の次代を牽引する新しい分野としてクリエイティブ産業の振興は重要である。については、「KYOTO CMEX」を、コンテンツ業界のクロスメディア展開によるビジネスマッチングやコンテンツ業界を支えるクリエイティブ人材の育成・交流を図る事業として、一層の充実並びに国内外への発信強化を図られたい。

6. 「小倉百人一首殿堂 時雨殿」の積極的活用

「古典の日に関する法律」が成立したことを受け、古典の普及や活用を図り、人材育成や文化的に豊かな生活の実現に向けた取り組みが一層必要となる。

本所では、「小倉百人一首殿堂 時雨殿」において、古典の普及・活用に向けた取り組みを充実したいと考えており、必要な財政支援を講じられたい。

7. 産業空洞化対策と雇用拡大のための企業立地の促進

京都の産業基盤強化、経済発展の促進、雇用の場の拡大を図るには、新たな企業誘致と、既存企業の他府県への移転防止が必要である。とりわけ、京都第二外環状道路をはじめ、京滋バイパスや第二京阪道路等の整備で交通アクセスが飛躍的に向上しており、用地需要の高い京都市南部地域における企業立地適地の確保を積極的に推進されたい。

8. リニア中央新幹線の「京都駅ルート」実現の推進

国の経済成長戦略の柱である観光立国を推進するためにも、オール京都で「京都駅ルート」の実現に向けた取り組みを推進されたい。

9. 「歩くまち・京都」総合交通戦略の推進

LRT など未来の公共交通の検討やパーク＆ライドの通年実施など、利便性の高い、公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現されたい。

10. まちなかにおける新たな賑わいづくりの創出（新規）

御池シンボルロードや梅小路公園周辺地域等を活用した、市内中心部における

新たな賑わいづくり事業について積極的に推進されたい。

1 1. 良好な景観形成などの推進

京都の景観形成に大きく影響を与える屋外広告物については、都市格を向上させるためにも、「京都市屋外広告物等に関する条例」に基づき、制度運用を積極的に進められたい。

1 2. 南部創造の推進

らくなん進都内に開所される「京都市成長産業創造センター（技術の橋渡し拠点）」が、南部地域の活性化の核となるよう努められたい。

1 3. 防災・減災対策について（新規）

また、平成 25 年 9 月の台風 18 号の豪雨・浸水被害に鑑み、国や京都府と連携のもと、地元商工業者や住民の理解を得たうえで、必要な治水対策に取り組まれたい。

IV. 人づくり支援

1. 産業人材育成施策の強化・拡充

「京都産業育成コンソーシアム」では、各機関が実施する事業情報を一元化して情報サイトを web 上に開設して情報発信するとともに、「京都産業人材育成計画」に基づき、各種施策の推進と各機関が連携して取り組む共同事業について実施協議を進めている。

引き続き、それぞれの産業支援機関のより効果的な事業展開を促すとともに、企業においても社会情勢の変化に対応しうる産業人材の育成が推進されるよう、助成制度を充実するなど総合的・体系的な観点から、人材育成施策・支援を強化・拡充されたい。

2. 雇用対策のさらなる充実

雇用失業情勢に対応するため、雇用創出事業の充実を国に要請されたい。

また、当所が企業向けに取り組んでいるジョブ・カード制度については、「ジョブ・カード制度京都府地域推進計画」に沿って、企業への制度普及を支援されたい。

3. 京都経済の持続的発展を支える人材育成

京都経済の持続的発展を支えていく人材育成のためには、企業と社会が求める人材像と学校教育とを結ぶ必要がある。学校教育現場における単なる学科学習にとどまらず、実社会で必要な実学（簿記など）を学び、早い時期から社会人としての基礎力を身に付けるなど、世界に通用する人材を地域社会全体で育成する教育プログラムづくりに積極的に取り組まされたい。

以 上

未来技術交流会 実施概要

～未来を考え、未来を創る～

1 趣 旨

大学と中堅・中小企業が、成長性や将来的な需要が期待できる産業分野の未来技術や未来社会を考え、新たな製品開発グループの形成を目指す「未来技術交流会」を実施する。

また、未来技術交流会の立ち上げにあたって、その機運を盛り上げるためにキックオフフォーラムを開催する。

2 キックオフフォーラム

- (1) 日 時 平成25年12月11日(水) 13:30～16:00
- (2) 場 所 京都商工会議所 教室
- (3) 主 催 京都商工会議所
- (4) 共 催 京都産学公連携機構
- (5) 定 員 150人
- (6) 内 容

① 基調講演

演題 「未来技術交流会の立ち上げにあたって」

講師 尾池和夫 京都大学名誉教授・京都造形芸術大学学長

② 先進事例発表

自社の技術を生かした新たな取り組みを行っている企業3社程度による、取り組みの経過、苦労話、うまくいったポイント等の発表。参加者が自社の強みを生かすことへの気づきの機会とする。

3 未来技術交流会

(1) 運営方針

- ・京都産学公連携機構が、大学、産業支援機関、企業・団体等の協力を得て運営。
- ・京都の中堅・中小ものづくり系企業と大学の研究者が、自由闊達に意見交換ができる場として開催し、これをきっかけとした新たな製品開発グループの形成を目指す。
- ・成長性や将来的な需要が期待できる産業分野をテーマに月1回程度開催。
- ・毎回、大学等の研究者2名程度、中堅・中小企業の経営者等20名程度で開催。
(メンバーは固定しない。)

(2) メンバー

- ・製品開発型、高度加工型、試作関係企業等の若手経営者、技術者

(3) 当面のテーマ

平成26年1月	防災・減災技術開発
2月	医療機器の未来
3月	ビッグデータの収集と活用